

わたしが一番 きれいだったとき

～「問題史」としての戦争と戦後。
そして、父と母の若き日の肖像～

♣ 硬派な歴史エッセイ！ ♣

人びとの暮らしを撃ち砕いたのは、いつもドヤ顔でやってくる「戦争」だった。`新しい戦前、`新たな軍国主義、そんな時代に杭を打つ！

☆詩人茨木のり子の詩「わたしが一番きれいだったとき」の時代。1940年から1950年の「戦争」「戦後」の時代に青春だった若き日の父と母。その時代を「問題史」として、今に問う！

本書の内容

- ◆第1章◆対英米戦前夜～この国はなぜ戦争をしたのか？◆第2章◆“熱狂”と“虚偽”の時代
- ◆第3章◆「特攻」の悲劇と「原爆」の惨劇 第4章◆「敗戦」後。餓えと「闇市」、そして“バンバン”
- ◆第5章◆「東京裁判」は“勝者の裁き”なのか？ ◆終章◆父と母の若き日の肖像

【著者：八柏龍紀(やがしわたつり)】 ☆慶應義塾大学法学部・文学部卒。大手予備校講師、東大全学自由ゼミなど歴史教師として多くの教え子と語り学び、京都新聞・京都商工会議所共催「京都検定」講座講師、「週刊金曜日」書評委員など歴史・社会哲学中心に執筆・講演活動を展開。
 ☆著書は『セピアの時代』(大和書房)、『戦後史を歩く』(情況出版)、『感動！禁止！』(ベスト新書)
 紀伊國屋新宿本店新書部門 4 週連続トップテン入り！、『日本人が知らない「天皇と生前退位」』(双葉社) Amazon売れ筋ランキング 1 位！など多数！

ご注文は JRC まで FAX03 - 3294 - 2177

貴店 番線 印	注文冊数	冊	季林書房 神奈川県大磯町高麗 2-7-23
	わたしが一番きれいだったとき 八柏龍紀 著 ～「問題史」としての戦争と戦後。そして、父と母の若き日の肖像～		
	ISBN 978-4-9914613-1-6 C 0095	四六判	上製本 384 頁 定価 2,200 円 (税別) 発売 2026 年 4 月中旬
ご担当	様		

* 返品条件付き注文扱い すべての取次への出荷が可能です。

